

～“母に贈る歌”を振り返って

「病床の母の為に」という想いが、コンサート開催の動機となりましたが、いざ「開催」を決意すると、実に様々な「オープン・マインド」の発想、構想が、まるで星の降るごとく舞い降りてきて、私の心を駆け巡りはじめました。

「福祉施設で療養する方々に、ホールへ足を運んで頂き、生の演奏を楽しんで頂く」という構想も「オープン・マインド」というコンセプトのひとつでした。コンサート当日は、地元の福祉施設のみならず、東浦和をはじめ各地の施設から75名の方々が、会場にお越し下さいました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

また今回、大つかまいこさんにチラシ・ポスター・プログラムの表紙貼り絵制作をお願いして、ロビーにはミニ展示場も設置され、その斬新でぬくもりのあるデザインは好評を呼びました。

知り合って間もない作曲家の石川真昭氏（アーティスト名IRISM）には、オリジナル曲をプレゼントして頂き、披露させて頂きました。今回のコンサートの趣旨を表現する素敵な楽曲は皆様に喜ばれました。

プログラム部の最後「花は咲く」（復興支援ソング）では、和光市よりはるばるお越し下さった25名の「オペラ彩」合唱部の皆様が、客席から舞台にお上がり下さり、会場と一体となってこの名曲が紡がれて行きました。舞台と客席の垣根がとれ、自由な空間が生まれた瞬間でした。

「南條年章オペラ研究室」を主宰される南條氏の温かい司会は、コンサートを大成功に導いて下さいました。

次世代の音楽界を担うべきテノールの青柳明さん、ピアニストの江澤隆行さんの音楽への真摯な取り組みは、お客様の大きな共感を呼ぶものとなりました。

また今回は、「南條年章オペラ研究室」に学び、現在オペラ界の第一線で活躍される7人の歌手の皆様が、会場の受付をお手伝い下さり、ロビーは花が咲いたようになりました。

竹村明子さん、濱崎志麻さん、佐藤亜希子さん、小林厚子さん、斉藤佳奈子さん、弓場なるみさん、大柴朋子さん、ありがとうございました。

「プログラム」へは各界の方々より「社会」又は「音楽界」に向けた貴重なメッセージをお寄せ頂きました。

新井敦夫様（SORA Synesthetic Design Studio 代表）

伊藤京子様（公益財団法人アルゲリッチ芸術振興財団 副理事長/ピアニスト）

黒田俊介様（有料老人ホーム未来邸 日本橋施設長）

嶺 貞子先生（東京芸術大学名誉教授/声楽家）

和田タカ子先生（特定非営利活動法人オペラ彩 理事長）

心より感謝申し上げます。

母が長きに渡りお世話になって参りました表千家都流家元・荒木草榮先生のご厚意によりお社中の皆様の絶大なるご支援を頂きました。

そして幼少時代にお世話になった「新小岩幼稚園」の先生方、中学、高校時代の同窓生たちの温かいご協力、また、音楽関係者、歌手仲間の皆様が、母の都合とはいえ、交通の便の決して良いとは言えない「江戸川総合文化センター」に足をお運び下さり、会場は大盛況となりました。

プログラムも終盤になると、「オープン・マインド」の空間は、お客様の熱い想いで満たされ、アンコール曲「もみじ」は、まさに会場一体となって熱唱されました。誰もが、この「オープン・マインド」の下、心が洗われ、温かく幸せな時間、空間を共有することができたのではないかと信じております。

ありがとうございました。

出口正子